



(写真) Emtrasur “Emtrasur の飛行機 アルゼンチンで滞留している問題の現状を確認”

## Boeing747 のテロ関与疑惑

株式会社ベネインベストメント  
松浦 健太郎

**6** 月 8 日 ベネズエラの飛行機会社「Emtrasur」の飛行機 Boeing 747 がアルゼンチンから動けなくなった。

当初、Boeing 747 が米国政府の制裁対象となっていたことで移動出来なくなったと報じられたが、様々な憶測や情報が飛び交う中で、この問題は国際的な大問題に発展しようとしている。

本稿では、この Boeing 747 に関する現在の状況について確認したい。

## ウルグアイ入国拒否で飛行機が滞留

最初に言及しておきたいが、この問題は情報が錯綜しており、正確な現状の把握は困難だ。

そのため、情報の整理として「確定している事実」「政府関係者による公式発表」「憶測や報道」の3つに分けて紹介したい。

最初にこの問題について「確定している事実」を紹介したい。

6月6日にベネズエラの航空会社「Emtrasur Cargo」の Boeing747 がメキシコからアルゼンチンのコルドバにある「Exeiza 空港」に到着した。

「Emtrasur Cargo」は、ベネズエラの国営航空会社「Conviasa」の子会社で、貨物の空輸を専門にしている会社である。

そして、6月8日に「Emtrasur Cargo」はウルグアイに向けて出国を試みた。

この時、ブエノスアイレスでジェット燃料の給油をしようとしたが、給油会社は Boeing747 が米国政府の制裁対象となっている飛行機だったことを理由に給油を拒否。結局、給油しないままウルグアイに向けて出国した。

しかし、ウルグアイ側が「Emtrasur Cargo」の飛行機の入国を拒否。やむなく「Exeiza 空港」に引き返し、出国できなくなった。

Boeing747 機は元々イランの航空会社「Mahan Airline」の所有していた飛行機で、米国政府が制裁を科したのも「Mahan Airline」が所有していた時の話だった(米国政府は、「Mahan Air」がテロ組織「イラン革命防衛隊」と関係しているとの理由から制裁を科している)。

しかし、「Emtrasur Cargo」は、2022年1月に Boeing747 を購入したとしており、現在同機の所有権は「Emtrasur Cargo」にあると主張している。

他、Boeing747 はアルゼンチンへ到着する前にメキシコに立ち寄っている。

また、5月13日にパラグアイに到着し、5月16日にパラグアイ産のタバコを乗せてアルーバへ移動している。

アルーバから直接メキシコに向かったのか、あるいはどこか別の国に立ち寄ったのか、正確なところは確認できなかった。

アルゼンチンは Boeing747 機の捜査を開始。同飛行機に搭乗していた乗組員はホテルから移動禁止となった。

Boeing747 の乗組員は19名。

5名はイラン人。14名はベネズエラ人。

特にイラン人の中に「イラン革命防衛隊」の関係者とされる人物と同じ名前の人物がおり、テロリストの活動を支援するような仕組みがあるのではないかとして問題が大きくなっている。

### アルゼンチン・パラグアイ 食い違う主張

本件について、アルゼンチン政府は捜査を実施。飛行機の実地捜査を行ったが不審な点は見られなかったとの報告をしている。また、テロ組織の構成員と名前が一致した点についても「たまたま同じ名前だった」と説明している。

同国のフェルナンデス大統領は、「野党が存在しない問題を作りたきつけている」と指摘。

外相も「メディアのフェイクニュースは時に行き過ぎている」と苦言を呈し、事態の鎮静化を図っている。

一方、Boeing747 が5月13～16日に立ち寄ったパラグアイでは全く異なる主張がされている。

7月1日 パラグアイのベニテス大統領は、本件について「拘束された乗組員の大半はテロリストと関係がある」と指摘。「乗組員の1人はキューバで顔を変えた」と述べた。

「顔を変えた」というのは整形手術のことを言っていると思われる。

つまり、アルゼンチン政府は「たまたま同じ名前だった」と発表したが、「キューバで整形手術を行ったため顔が変わっていただけで、問題の人物はテロ組織の構成員だ」と言いたかったと思われる。

また、アルゼンチン政府は「問題ない」と説明しているが、アルゼンチン検察は異なる見解を示している。

検察は、同飛行機に搭乗していたパイロット 1名が、「Mahan Airline」と関係している可能性が高いと指摘。

他、スケジュール帖に「Mahan Air Hotel (No.2)」と書かれた予定と電話番号が書かれていたという。

また、「Mahan Airline」から「Emtrasur Cargo」にBoeing747の所有権が移転したタイミングにも疑問点があるようで、不審な点があるとしている。

## テロ組織と関係ありそうだが断定は困難

以下では報道で指摘されている情報を紹介したい。

中々 核心に迫った内容もあるが、どこまでが正確な情報で、どこからが憶測やゴシップなのかは判断できかねる。

まず、本件の重要な問題、1つ目は「乗組員とテロ組織に関係があるかどうか」だろう。

本件について、テロ組織と関係があるのはイラン人で特に Khodadadzadeh Ali Ghaffar 氏と Mohammad Khosraviaragh 氏の2名が問題視されている。

両名は「イラン革命防衛隊」の特殊部隊コッズ軍の関係者と名前が同じと報じられている。ただし、Khodadadzadeh Ali Ghaffar 氏は整形手術を行ったのか顔が違う。

また、Mohammad Khosraviaragh 氏はカラカスで同機に搭乗した記録があるが、Boeing747 から消えているという（つまり、カラカスを出国した当時、乗組員は20名だったということだろう）。

つまり、誤った登録をしていない限り Mohammad Khosraviaragh という人物がどこかで消えたことになる。

他、アルゼンチン政府がBoeing747を捜査したところ、乗組員の誰の所有物でもないiPadを発見したという。このiPadの情報については現在調査中。

また、Boeing747は貨物輸送用の飛行機であり、操縦するためには通常5人いれば十分で、19人も乗っている必要がないという。

不必要に多い理由について、「イラン人パイロットがベネズエラ人パイロットの指導をしていた」と説明しているが、不自然な多さだと感じるのは自然なことだろう。

上記の説明を聞く限りでは、怪しい部分が多くテロ組織と何等かの関わりがある可能性が高い気がするが、情報自体がどこまで正確なのかは判断できない。

次に重要な問題、2つ目は「何の目的でBoeing747が飛んでいたのか？」である。

公式にはBoeing747は貨物空輸のために複数の国を移動していた。

しかし、一部の報道は、Boeing747の目的は、テロ組織の資金繰りを支援するためのスキームの1つと指摘している。

制裁により電子送金などを介した金融取引が出来ないため、各国に行き現金を受け取るなどしていた可能性が考えられる。他、武器の密売・テロ工作の準備など様々な可能性も指摘されている。

最後に問題視されているのは、仮にBoeing747がテロ組織を支援していたとして、パラグアイ・アルバ・メキシコ・アルゼンチン・ウルグアイなど様々な国に立ち寄るのには何らかの理由があり、南米でテロ支援ネットワークが存在している可能性があることだ。

その中でもマドゥロ政権は強くテロ組織の活動を支援していると非難を受けることになるだろう。

最悪の場合は、米国がマドゥロ政権を「テロ支援国家」と認定することも有り得る。

また、パラグアイについては、5月にBoeing747が同国に立ち寄った際に、パラグアイ産のタバコを「Tabacalera del Este SA (TABASA)」という会社から購入したが、この会社は、パラグアイのオラシオ・コルテス前大統領が所有する会社だという。

ベニテス大統領は「今回の件とコルテス前大統領は無関係」と説明しているが、両名は同じコロラド党に所属しており、身内の問題を隠しているだけとの憶測も存在する。

現段階では、不明なことばかりで、フェイクニュースを流す理由もあるし、仮に事実であった場合、いくつかの政府が事実を隠そうとすることも考えられる。

ただ、本件はかなり大きな問題に発展しており、国民の関心があるため報じられているというよりもメディアが意図的にたきつけている印象が否めない。

メディアの動きに違和感がある時は、特定のニュースを多く報じるよう裏で資金が動いているケースは多い。

もちろん何かの目的をもって、資金が動いているわけで、何かのシナリオが作られているのではないかと疑ってしまう。

以上